

響けしゃんしゃん～チーム☆おーしゃんず～

■ 事業のねらい

地域の豊かな自然や伝統・文化に親しみ、理解を深めるとともに、地域社会の一員として故郷に生きる態度を養う



- 実施日 平成 24 年 6 月 30 日 (土)～7 月 1 日 (日) 1泊2日
- 参加対象 深川市内小学生 20 名
- 参加実績 参加者：36 名
小 2 = 7 名、小 3 = 15 名、小 4 = 4 名、
小 5 = 3 名、小 6 = 7 名
男子 = 1 名、女子 = 35 名

■ 備考 活動場所：青年の家

1 事業実施の背景

自分が生まれ育った地域の豊かな自然や伝統・文化に親しみ、理解を深めるふるさと教育の充実に向け、先人の生き方に触れることなどを通して、ふるさとへの愛着や誇りを育み、地域社会への一員としてふるさとに生きる自覚の涵養に努めるために「北の大地に根ざした豊かな学び推進事業」の取組を進めることが必要とされている。

本事業は、深川市の伝統舞踊「しゃんしゃん傘踊り」の練習や、地域行事での発表を通し、上記のねらいと併せ、成就感や連帯感を養うことを目的に実施するものとする。

2 プログラムデザイン

受付 6 月 30 日 (土) 13:00

解散 7 月 1 日 (日) 13:45

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
14 土								受付	オープニング	みんなで踊ろう① (傘踊りの練習)			夕食自由	Tシャツ作り (踊り披露のための Tシャツ製作)		入浴自由	就寝
15 月	起床	朝食	清掃	みんなで踊ろう② (傘踊り仕上げ)		おひろめ会 (傘踊りの披露)		昼食	閉会式								

■ アクティビティについて



■ 意図

- 「きなんせ節」「しゃんしゃん傘踊り」「深川音頭」の3曲に合わせ、傘の扱い方、持ち方、ならし方、歩き方を踊りの基本を身につける。
- 2日目に行われる、おひろめ会のチーム衣装を各自で作成し、チームとしての連帯感を醸成させる。

■ 留意事項

- 初めての参加者も抵抗なく活動に取り組めるようなアクティビティ（アイスブレイク）を取り入れたり、各プログラムの時間配分やグループ編成を工夫したりした。
- 指導者、ボランティア、経験者（上級生）による、グループ毎のきめ細かな指導を実施するため、場所を2か所に分けて行った。

3 活動の様子



■ 当日の様子

初日は、青年の家職員や上級生を指導者として、傘回しに悪戦苦闘しながら、汗だくになって踊りを練習し、夜には、チーム名のアイロンプリント、フェルトでイニシャルやイラストで装飾したお揃いのTシャツを完成させた。

2日目は、前日に作成したTシャツを身にまとい、体育館で踊りの最終確認を行った後、イベント会場で踊りを披露し、大勢の観客から温かい声援と拍手が送られた。

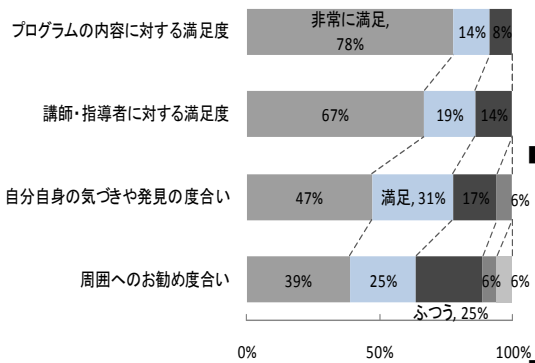
■ 参加者（小学生）の声 （※満足度については、左下表のとおり。）

○ 最初は踊れなかったけど、みんなが優しく教えてくれたので、踊れるようになってすごく楽しかった

○ みんなが見ていたところで踊るのが恥ずかしかったけれど楽しかった。

※ 活動の楽しさや達成感を味わったことに対する感想が多く寄せられた。

4 事業評価

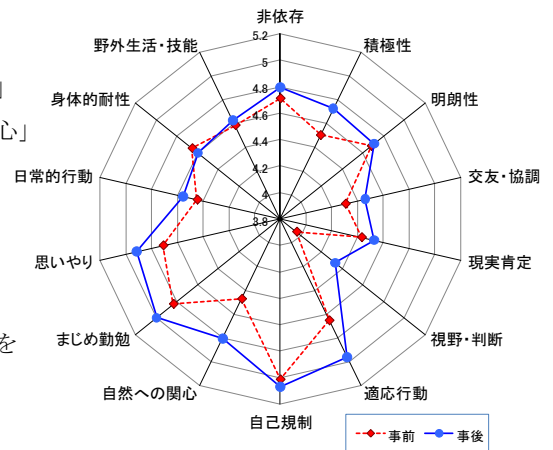


■ 評価方法・重点

事業に取り組む参加者の様子とアンケートによる評価（記述を含む）により、地域の豊かな自然や伝統・文化に親しみ、理解を深めるとともに、地域社会の一員として故郷に生きる態度を養われたかについて評価する。

■ 参加者の変容【IKR調査結果】

「積極性」「視野・判断」「思いやり」「交友協調」「適応行動」「自然への関心」が伸びを示している。



■ 結果の分析・考察

皆で教え合いながら、繰り返して踊りに取り組んだり、お互いに協力をしながらTシャツ作りに取り組んだことから、「視野・判断」について0.4ポイントの上昇が見られたと考える。

また、猛暑の中、野外会場で観客の前で踊りを披露したことで「適応行動」について0.3ポイント上昇したと考える。

5 まとめ



■ 成果

- 学習の成果を発表する場をプログラムの中に盛り込み、参加者のモチベーションを高めることができた。
- 事業後、学習成果を発表する機会の提供を行うことができた。（地域の祭り参加案内）
- 指導体制を工夫したことにより、きめ細かなかつ時間的なゆとりのある運営を行えた。

■ 課題・今後の方向性

- プログラムを実施するにあたり、物品や材料の十分な確保が必要である。
- 発表の場における動きや日程についての担当者同士の共有化が必要である。（待機場所や食事場所の事前確認・水分補給や暑さ対策の徹底）
- 地域の人材やボランティアの一層の活用が必要である。（参加者が将来ボランティア等として参加してもらえるような）
- 踊りの練習に関連しながら、歴史文化を学べる機会の提供が必要である。